

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

《接触感染に注意！》

新型コロナウイルスの感染経路として飛沫感染のほか、**接触感染**に注意が必要です。

人は、“無意識に”顔を触っています！

(厚生労働省HPより)



インフルエンザ流行の注意報が発令されました！

長崎県では、9月に入ってから患者数が急激に増加し、10月5日にインフルエンザ流行の注意報が発令されました。

インフルエンザは、この2年は日本国内で流行しなかったため、感染してインフルエンザの免疫を獲得している人の割合が少なくなっていると考えられています。これは、COVID-19対策として普及した手指衛生やマスク着用、3密回避、国際的な人の移動の制限等の感染対策がインフルエンザの感染予防についても効果的であったためと考えられます。

しかしながら、今年度は5月8日以降にCOVID-19感染症が5類感染症に引き下げとなり制限が緩和さ

れたことから、COVID-19感染症とインフルエンザの同時流行が懸念されます。

<日常生活で気を付けること>

まずは手洗いが大切です。

外出先からの帰宅時や食事前などにこまめに石鹸やアルコール消毒薬などで手を洗いましょう。咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、マスクを着用しましょう。

(感染管理認定看護師 内野 めぐみ)

外来トイレのリニューアル工事完了のお知らせ

企画課長 白石 剛

2023年8月19日から実施しておりました外来トイレのリニューアル工事が2023年9月30日に完了しました。

工事期間中は、ご来院されている患者さんやご家族の皆様にはご不便・ご迷惑をおかけいたしました。ご協力ありがとうございました。

全室ウォシュレット付きの洋式に変更し、出入り口を自動ドアに改修し、以前よりも明るく使いやすいトイレになりました。

当院は、これからも皆様に信頼される病院として、安心・安全で快適な医療環境の提供に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



マイナ受付対応しています!

経営企画室長 宇佐美 克輝

病院や薬局で健康保険証の代わりにマイナンバーカードを使う「マイナ受付」が当院でもご利用できます。

オンライン利用で患者さんの医療保険資格を確認することが可能になり、例えば「限度額適用認定証」がなくても、限度額を超える支払が免除されるなどのメリットもあります。

外来の受付窓口にて2台の専用カードリーダーを設け、受付をしています。

使い方などご不明な点は、事務係員が分かり易くご案内いたしますので、お気軽にお声がけください。

【※限度額適用認定証とは】

窓口での支払が高額になる場合に、自己負担額を所得に応じた限度額にするために医療機関に提出する書類のことです。



がんリハビリテーションを実施しています!

3階病棟 副看護師長 **松永 亮太**

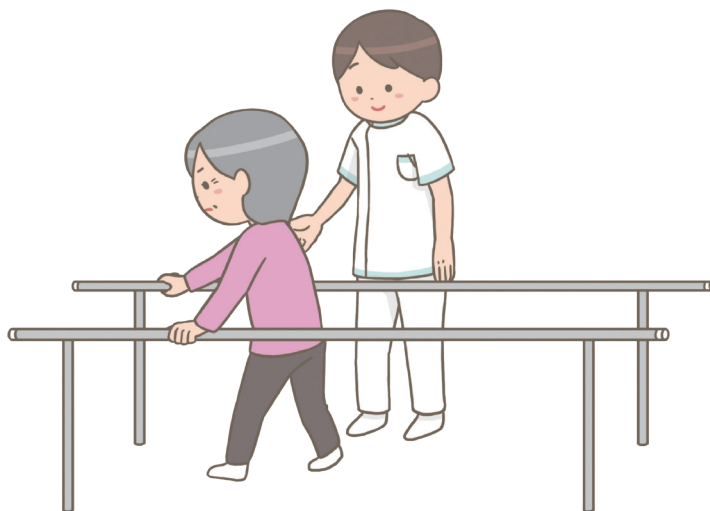
がんになると、痛みやだるさによって動けなくなったり、治療を受けることで身体の機能が落ちることがあります。

がんリハビリテーションは、それらの影響から回復力を高め、残っている機能を維持・向上させる目的で行われます。その中で看護師は、リハビリテーションだけでなく、疾患や治療・今後の生活などの不安や悩みを解決できるよう関わらせていただいています。



また、外科医師、病棟看護師、緩和ケア認定看護師、理学療法士等の多職種で週に一度カンファレンスを行い、その人らしく過ごせるようにお手伝いしています。

今後もこの取り組みを継続していきたいと思っています。



在宅看護実習を通して看護学生に看護の喜びを伝えたい!

訪問看護ステーション看護師長 **松本 深雪**

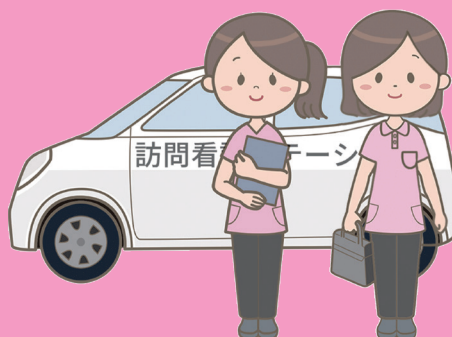
訪問看護ステーション『さくらそう』では、5月から10月にかけて3校の看護学生の実習を受け入れました。この実習は、看護学生が看護師に同行し訪問看護の実際を体験し学ぶものです。

看護学生は、入院中の患者さんとは違って、在宅療養者さんがいつも聞いている生活音や家族の声、見慣れた風景に囲まれて生活される様子を見て、療養者さんの看護ケアはもちろん、ご家族への支援や地域・多職種との連携、様々な制度やサービスなどを学んでいきます。

また、同行中の車中で訪問看護師の看護に対する思い・やりがいなど、「看護の語り(ナラティブ)」を聴く機会にもなっています。訪問時は看護学生も緊張していた

と思いますが、療養者さんは快く実習を許してくださり、学生が来ることを楽しみにされていました。

訪問看護での体験を通して、少しでも療養者さんが望む在宅での生活が継続できるよう、支援を学んでほしいと思います。



診療科紹介(放射線科)

放射線科医長 中村 悟

放射線科の診療業務は、画像診断と放射線治療がありますが、当院では常勤医師2名と非常勤医師1名（専門医、長崎大学からの診療援助）で主に画像診断を行っています。

具体的な業務としては、各診療科からの依頼を受けて、CT、MRI、RI（シンチグラム）、単純写真、透視（胃、大腸）の造影を含む施行および読影を行います。また、院内および院外からの依頼を受けて、撮像された画像の読影も行います。

最近の画像診断機器の進歩は目覚ましく、当院は、CTは80列、MRIは1.5テスラ、RIは2ヘッド（SPECT-CTを含む）の最新鋭機器を有しています。



常勤医による読影に加え、長崎大学放射線科と密な連携体制をとり正確な診断に結び付けています。

今後も地域の医療機関との連携を密にし、東彼地区のお役に立てるよう、業務の充実を図っていききたいと思います。

部署紹介(医療機器管理室)

医療機器管理室長 津田 真実

医療機器管理室は院内で使用する医療機器の病棟への貸出・返却の管理、点検などを行うところです。共用できる医療機器は各科・各病棟で専有するのではなく、管理室で中央管理することで消耗機器の偏りをなくし、点検も専属スタッフが行うことで長く安全に使用することができます。患者さんが利用する場所ではありませんが、医療機器を通して患者さんにつながる部署です。

スタッフは臨床工学技士2名です。技士はこの管理室での業務以外にも使用中の人工呼吸器や血液浄化装置などの機器の操作・点検のために病棟や、手術室など院内全体で業務を行っています。

機器の多くは看護師が操作します。普段と違う音や



操作感といった看護師からの報告が機器の異常を早期発見できる重要な情報となるため、他職種との連携も大切にし、安心・安全な医療提供の一端を担っています。

編集後記

副看護部長 武富 真矢子

霜月を迎え、日毎に寒気加わる時節となりました。朝晩が冷え込み、肌寒さを感じます。一日の寒暖差や室内と室外の寒暖差が大きくなると、『寒暖差疲労』を起こしやすくなるそうです。

『寒暖差疲労』とは、気温差が大きいと起こりやすくなるもので、体温を調節する自律神経が過剰に働いてしまい、全身倦怠感、冷え性、頭痛、首こり、肩こり、胃腸障害、イライラ、不安、アレルギーなどの症状が出るそうです。

本格的に冷え込む冬に起こりやすいとされており、

その理由として、一日の最低・最高気温の差が大きくなることやさらに暖房機器を使用することで室内外の気温差も広がるため、体が寒暖差を感じ、体調を崩しやすくなるそうです。寒いときには、外出時などスカーフやマフラーを使用して、首肩周りを冷やさないようにしたり、首と肩のストレッチをしたりすると良いと言われています。

これからの季節、感染予防も大切ですが、寒暖差もできるだけ感じないようにして『寒暖差疲労』の予防をして過ごしていただけたらと思います。